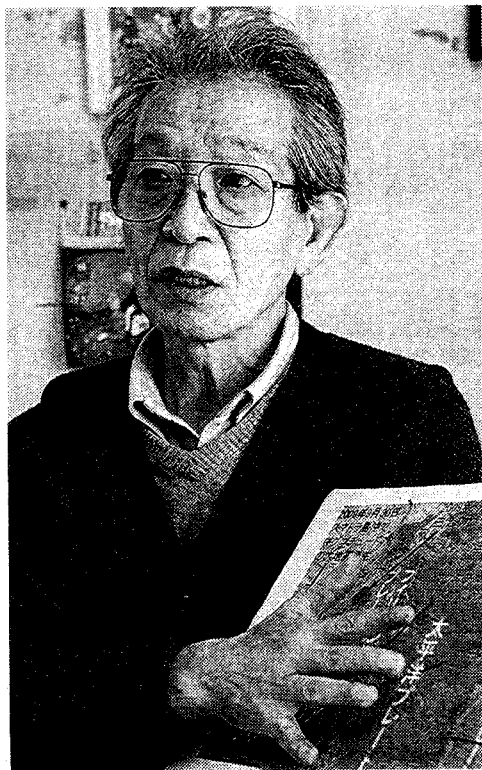


作家・広瀬 隆氏に聞く

どうする原発行政



ひろせ・たかし 1943年、東京生まれ。65年、早稲田大学理工学部卒業。大手メーカーの技術者を経て執筆活動へ。81年の著書「東京に原発を！」は「安全ならば送電コストがかからない首都圏に建設しては」とのアンチテーゼを掲げて話題に。著書に「資本主義崩壊の首謀者たち」など。

「事故後に炉心溶融が起りそうになった時、必ず水素爆発は起きると思った。爆発が分かっているのに誰も指摘できない。事故後に対応すべき人が原子炉を理解せず、計算できない集団だったことは驚きだ」

「事故後に炉心溶融が起りそうになった時、必ず水素爆発は起きると思った。爆発が分かっているのに誰も指摘できない。事故後に対応すべき人が原子炉を理解せず、計算できない集団だったことは驚きだ」

「事故後に炉心溶融が起りそうになった時、必ず水素爆発は起きると思った。爆発が分かっているのに誰も指摘できない。事故後に対応すべき人が原子炉を理解せず、計算できない集団だったことは驚きだ」

「事故後に炉心溶融が起りそうになった時、必ず水素爆発は起きると思った。爆発が分かっているのに誰も指摘できない。事故後に対応すべき人が原子炉を理解せず、計算できない集団だったことは驚きだ」

地震に無防備「浜岡」も危うい

言葉は少々乱暴だが再び「ヒバク国」となった日本。今度は自分たちの手で福島原発周辺の大地を放射線物質で汚し、多くの人が風向きにおびえる。これからも原発依存でいくのか、それともエネルギー政策を見直し「貧しくも安全な暮らしを選ぶのか。国民一人ひとりに突き付けられていると思う。(邑)

「全然分かってない」と広瀬氏は言う。「『千年に一度』と言われるが、実際に被害を大きくしたのは津波。百年余り前の一九九六年に起きた明治三陸地震でも、岩手県沿岸の綾里で三十八人、田老でも十四人を記録した。決して『想定外』ではなかったはずだ。素人の私でも予測できるのに、対策を取っていないのは『人災』だ」

まず止めて総点検

「全然分かってない」と広瀬氏は言う。「『千年に一度』と言われるが、実際に被害を大きくしたのは津波。百年余り前の一九九六年に起きた明治三陸地震でも、岩手県沿岸の綾里で三十八人、田老でも十四人を記録した。決して『想定外』ではなかったはずだ。素人の私でも予測できるのに、対策を取っていないのは『人災』だ」